

「エシカル・ツナ・コラボレーション」の概要 | 2026年6月

エシカル・ツナ・コラボレーション（ETC）は、マグロ漁船における強制労働問題の解決を支援するため、マルチステークホルダーかつ市場主導型のイニシアチブを策定しています。本ステークホルダーからの意見募集期間（7月31日まで）では、ETCの設計における以下の主要要素に焦点を当てています。

- ETCに参加するサプライチェーンの全段階におけるバイヤーおよび船主の責任
- 参加するバイヤーおよび船主がETCに提供するデータ

本概要は、船舶レベルでの改善を拡大する必要性というより広い文脈において、これらの提案を理解する一助となるほか、ETCがどのようにそのニーズに対応しようとしているか、また本イニシアチブの範囲と中核となる価値観についても理解を深めることができます。

ニーズ：船舶レベルでの改善を加速

水産業界とNGOコミュニティは、マグロ漁船における強制労働のリスク評価に注力してきました。今や、共同の取り組みは、特定されたリスクに対処するための行動を加速・拡大することに焦点を当てる必要があります。船舶レベルでの改善を加速させるには、以下が必要です。

- **より強力な市場シグナル** 個々の企業は自社のサプライチェーンにおけるリスクへの対処に取り組んでおり、有望なNGOのパイロットプロジェクトも漁師の状況を改善するためのアプローチを試験的に実施しています。しかし、マグロのサプライチェーンにおける複雑さのため、個別の取り組みだけでは大規模な変化を生み出すことはできません。一定数のバイヤーが漁師の状況に対する期待事項を一致させ、その期待をサプライチェーン全体に一貫して伝達することで、船舶の改善を促す必要があります。
- **キャパシティ構築と財政的支援** 強力な市場シグナルだけでは変化を生み出すには不十分です。改善意欲のある船主も、変化を実行に移すためにキャパシティ構築と財政的支援を必要としています。
- **漁業者代表や現地の専門家との連携** 取り組みの効果と持続性を確保するためには、改善を支援する十分な能力を持つ漁業者の代表や、地域・現地の専門家と連携してこれらすべてを実施する必要があります。

ETCがニーズにどう対応するか

ETCは、**マグロ漁船における漁師の成果を大規模に改善することを目的とした**、マルチステークホルダー・市場ベースのイニシアチブである。最初の5年間、ETCは以下の4つの優先事項に注力する：

- 契約条件に基づく賃金の適時支払い
- 雇用主負担による採用手数料
- 航海中の漁師によるWi-Fiへのアクセス

- 漁師による効果的な苦情処理メカニズムへのアクセス

この目標を達成するため、ETC は以下の取り組みを行います。



十分な数のバイヤーを巻き込み、サプライチェーンを通じて漁師の労働条件を改善するという**一貫した期待を船主に伝える**。



データを収集・分析し、優先事項に関する船舶のパフォーマンスと、参加バイヤーがサプライヤーに期待事項をどのように伝えているかを追跡する。



現場の組織や国際 NGO と連携し、パイロットプロジェクトを拡大するとともに、船舶レベルでの改善に向けた資金面および能力構築の支援を提供する。



自社のサプライチェーンに属する船舶が改善しているかどうかの**情報をバイヤーに対して提供し**、進捗を奨励・報奨する個別の意思決定に役立てる。



船舶、バイヤー、および ETC 全体による進捗状況を、集計データとして**公開する**。

ETC は、サプライチェーンのあらゆるレベルの業界関係者、人権および持続可能性に関する NGO、そして漁師を代表する、あるいは漁師と密接に連携する現場の組織で構成される、マルチステークホルダーの監督委員会によって運営されます。

このステークホルダーからのフィードバック期間中に共有された設計案は、**ETC がどのように業界の足並みを揃え、船舶所有者とバイヤーの両方からデータを収集するかについて、より詳細に説明しています**。10 月には、改善と能力構築、ガバナンスと資金モデル、および透明性に焦点を当てた設計案を共有し、ステークホルダーからの意見を募る予定です。

ETC のスコープ

- **米国で販売されるすべてのマグロ（生鮮、冷凍、常温保存品）** ETC は当初、米国市場に焦点を当てて開始されました。これは、CBP（米国税関・国境警備局）の執行や SIMP（持続可能な漁業管理計画）報告規制など、米国の規制環境に対応したイニシアチブを設計することを意図したものです。しかし、英国、EU、および日本の買い手からの関心に応え、ETC を市場横断的に運用し、世界的に整合した市場シグナルと船舶レベルの改善への投資を創出できるかどうかを検討しています。
- **船舶レベルでの強制労働（リクルートを含む）** これは、漁業者に対する重大かつ広く記録されているリスク、およびサプライチェーンのあらゆるレベルにおけるバイヤーへのリスク（法的、評判、規制、供給の確実性に関するリスクを含む）の高まりによるものです。
- **サプライチェーンにおける初期の優先事項：台湾船籍の船舶** 能力構築と船舶レベルでの改善を支援するため、ETC は、あらゆるマグロサプライチェーンの参加船主に対し、研修とリソースを提供します（詳細は ETC の秋のフィードバック期間中に決定・共有されます）。ETC

は、リスクが高いことが実証されており、かつ改善を拡大する大きな機会がある優先サプライチェーンにおいて、現場で活動する組織やパイロットプロジェクトと連携し、より深く関与していきます。ETC は、このより深い関与の段階において、当初、台湾船籍の船舶を優先対象としています。

ETC のコアバリュー

- **即時的な影響と長期的な影響** ETC は、漁師の生活状況の改善を加速させることを目指しています。具体的には、現時点で実現可能なことを優先しつつ、変化するニーズや進捗に応じて適応・拡大できるプログラムを構築します。その重要な一例として、賃金、採用手数料、Wi-Fi に関するパイロットプロジェクトを設計プロセスに組み込み、実際の取り組みが設計に反映されるようにしている。
- **国際的な人権および労働権の基準や指針との整合性** これには、ILO の「[労働における基本的原則と権利](#)」、2007 年の「[漁業労働条約 \(第 188 号\)](#)」、および「[移民漁師のための公正な労働市場サービスに関する指針](#)」、OECD の「[多国籍企業の責任ある事業活動に関する指針](#)」、ならびに国連の「[ビジネスと人権に関する指導原則](#)」が含まれる。
- **連携と共同ガバナンス** サプライチェーンの全段階、市民社会、現場の組織を含むシステム全体にわたる連携は、システム全体への影響をもたらすために不可欠である。具体的には、ETC は設計段階において、漁業者、漁業者代表、その他の現場組織との有意義な関与を優先し、実施パートナーシップの構築と、ETC のガバナンスモデルにおけるこれらのステークホルダーの役割の確立を図っている。
- **サプライチェーン全体の説明責任** すべてのバイヤーは、採用プロセスを含め、マグロ漁船における強制労働を防止・軽減する責任を負う。この責任を果たすには以下が含まれる：
 - 船舶レベルまでのサプライチェーンの可視化
 - 期待事項を伝え、進捗を評価・報いるための継続的なサプライヤーとの対話
 - サプライチェーン内の他の関係者の不安定化を招く購買慣行の評価と改善
 - サプライチェーンにおける人権侵害の防止および是正にかかる費用への分担
- **重複を避け、連携する** パイロットプロジェクトから苦情処理メカニズム、労働者の声のプラットフォーム、さらには個別および業界共同の人権デューデリジェンス手法に至るまで、多くの既存の取り組みが、様々な方法で漁業従事者の状況改善に取り組んでいる。ETC は、既存の取り組みを結びつけ、その効果を増幅させることで、全体としてより大きなインパクトを生み出すことを目指している。これには、新たな組織を設立するのではなく、ETC を運営するための能力と専門知識を持つ既存の組織を特定することが含まれる。

シーフード・ソリューションズ保全同盟 (Conservation Alliance for Seafood Solutions) は、Ethical Tuna Collaboration (ETC) の主催者であり、そのグローバルな会員基盤と、競争前の効果的な連携における実績を活用して、協調的な行動を推進します。本プロジェクトは、適用される独占禁止法および競争法に従って実施されます。本プロジェクトのいかなる内容も、価格設定、サプライヤーの選定、またはその他の競争上敏感な事項に関する調整を要求または奨励するものと解釈されることはありません。